

【第 1 号議案】(報告事項)

2024 年度(令和 6 年度)事業報告に関する件 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)

I. 事業の状況

2024 年度は、COVID19 の 5 類への移行による緩和から 1 年経過し、本部、支部の多くの活動が対面・Web 併用のハイブリッドで開催され、活動がさらに活発化された。5 月の第 146 回春期大会(名古屋大学)、11 月の第 147 回秋期大会(群馬大学)もハイブリッド式で開催し、第 147 回秋期大会から、オンラインは本部の設備を利用した。ポスターセッションは、第 144 回大会から始めたポスター発表番号の奇数・偶数に分割した 2 部構成による開催が定着した。懇親会も対面開催で、多くの学生会員含めた参加があり研究交流や意見交換が行われた。子ども同伴による参加については、第 145 回大会において試行的に実施され、第 147 回大会以降、正式に運用を開始した。

企画では、カーボンニュートラル(以下 CN)・サーキュラーエコノミー(以下 CE)をテーマとしたシンポジウムで積極的に情報提供した。第 132 回シンポジウム「カーボンニュートラルに対応する自動車へのアルミニウム活用最前線」ではギガキャスト関連の技術について、第 133 回「アルミニウム産業の CN・CE に向けた最新技術」では自動車部品用アルミニウムの温室効果ガス(以下 GHG)の排出量についておよび NEDO プロジェクト「資源循環型社会構築に向けたアルミニウム資源のアップグレードリサイクル技術開発」の取組みを報告した。第 134 回「アルミニウムの水素脆化・応力腐食割れの最前線」では、高強度アルミニウム合金適用課題、JST 国プロ(戦略的創造研究推進事業 CREST)での成果を報告した。第 135 回シンポジウム「アルミニウム産業における GHG 排出量削減取組みの最前線」は国際交流委員会と企画委員会が連携した企画で開催した。これらのシンポジウムは、会員から高い評価を得た。

研究事業では、14 テーマの研究部会(内、生産技術関連 4 テーマ)と6テーマの先行研究部会で研究活動を推進した。1 年延長した先行研究部会は、2 年間の検討結果に基づき、うち 4 テーマを 2025 年度から研究部会として発足させる。研究範囲を素材・製品に関わる「生産技術」へ拡張することで生産技術者の入会、学会行事への参加を促した。また、国際交流では 2025 年 9 月にタイ開催の「タイセミナー」の企画を進めた。ALMA2026 は、2026 年秋期大会で開催し、従来の ALMA セッションとせず、講演大会の各セッションに ALMA 招待講演を設定する予定とした。

男女共同参画事業では「夏の学校」に継続参画し、中高生を対象とし金属への関心を高めるためのプレゼンテーションや実験を実施した。男女共同参画セッションでは第 146 回大会で「子育て単身赴任教員ネットワーク」についてリレー形式で講演、第 147 回大会では「自分のワークライフバランスはワクワクでデザインする!」「ダイバーシティの推進とアンコンシャス・バイアス」として 2 名の講師に、キャリア形成とダイバーシティを推進するための講演をいただいた。

また、理事会回数を年 7 回以上の規程から定款と同じ 4 回以上に変更、定時総会時の配布資料の電子化促進による紙使用大幅削減、参与会の次年度以降開催への提言など、合理化も進めた。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第 4 条第 1 項第 1 号)

1. 春秋講演大会の開催

1)第146回春期大会 ハイブリッド開催

会期	:2024年5月10-12日	
会場	:名古屋大学・東山キャンパス	ハイブリッド開催
実行委員長	:小橋 眞(名古屋大学)	
定時総会	:2024年5月10日	名古屋大学・ES総合館1階 ESホール
研究発表講演	:2024年5月11-12日	147件発表
ポスターセッション	:2024年5月11日	対面2部構成にて開催 74件発表(日本語68件、英語6件)
表彰式	:2024年5月10日	名古屋大学・ES総合館1階 ESホール
レセプション	:2024年5月10日	名古屋大学・豊田講堂シンポジオン2階 ユニバーサルクラブ
懇親会	:2024年5月11日	名古屋大学・生協南部食堂
機器・カタログ展示	:2024年5月11-12日	7社参加
企業研究会	:2024年5月11日	11社+1団体参加

2)第147回秋期大会 ハイブリッド開催

会期	:2024年11月8-10日	
会場	:群馬大学・太田キャンパス	ハイブリッド開催
実行委員長	:半谷禎彦(群馬大学)	
研究発表講演	:2024年11月9-10日	176件発表
ポスターセッション	:2024年11月9日	対面2部構成にて開催 108件発表(日本語97件、英語11件)
表彰式	:2024年11月8日	群馬大学 太田キャンパス 4階研修室2
レセプション	:2024年11月8日	群馬大学 太田キャンパス ものづくりイノベーションセンター1階 食堂
懇親会	:2024年11月9日	ダニエルハウス
機器・カタログ展示	:2024年11月9-10日	6社参加
企業研究会	:2024年11月9日	11社+1団体参加

2. シンポジウム、セミナー等の開催

	名 称	開催年月日	開催場所	参加者数
1	第 132 回シンポジウム「カーボンニュートラルに対応する自動車へのアルミニウム活用最前線」	2024 年 8 月 2 日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス(完全対面)	96 名
2	軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」	2024 年 11 月 21 日、 22 日	つま恋リゾート彩の郷 (完全対面)	40 名
3	第 133 回シンポジウム「アルミニウム産業の CN・CE に向けた最新技術」	2024 年 12 月 10 日	日本大学 駿河台キャンパス(ハイブリッド開催)	64 名
4	第 32 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－入門編(状態図と組織)」第 14 回	2024 年 12 月 20 日	貸会議室 内海 (完全対面)	49 名
5	第 135 回シンポジウム「アルミニウム産業における GHG 排出量削減取組みの最前線」	2025 年 2 月 26 日	貸会議室 内海 ハイブリッド開催	70 名
6	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－中級編(時効析出)」第 13 回	2025 年 3 月 4 日	貸会議室 内海 (完全対面)	48 名
7	第 134 回シンポジウム「アルミニウムの水素脆化・応力腐食割れの最前線」	2025 年 3 月 11 日	貸会議室 内海 ハイブリッド開催	35 名
8	第 34 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－応用編(加工・熱処理による組織変化)」第 11 回	2025 年 3 月 12 日	貸会議室 内海 (完全対面)	36 名

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第 4 条第 1 項第 2 号)

1. 国際交流

1) ALMA (Asian Light Metals Association) Forum 2026 & Meeting

2026 年秋期大会で開催予定の ALMA2026 について開催形式を検討。ALMA Forum は従来講演大会の中で ALMA セッションを設定し、オーストラリア、中国、韓国、台湾、日本の参加 5 か国からの招待者約 10 名の講演を実施したが、ALMA2026 では 秋期大会のそれぞれのセッションに ALMA 招待者の講演を設定し、英語での講演枠とするなどを大会運営委員会と連携し検討することとした。Meeting や見学会については従来通り Forum 前日開催する計画とした。

2)タイ研修会(タイセミナー)企画

第 3 回タイ研修会を 2025 年 9 月にタイにて実施すべく企画を推進した。日本からの講師 8 名、タイの講師 2 名とし、講義内容も見直し。また、参加費を徴収しパンケットなども新たに取り扱い開催する企画を進めた。講義の内容は、第 2 回に実施した受講者からのアンケートをもとに、自動車関連の講義は廃止し、箔圧延と鋳物・ダイカストの溶湯処理を取り入れるなど検討した。

2. 産学官の連携

今年度の参与会は、軽金属製造において大きな課題となるエネルギーに着目し環境負荷を軽減するエネルギーの創成と活用をテーマに2回実施した。第1回は7月12日に産業総合研究所・福島再生可能エネルギー研究所(FREA)様を訪問し、カーボンニュートラル実現のための次世代エネルギーとしての水素エネルギー、主力電源化に向けた太陽光発電・風力発電の実証試験、地熱利用技術などの設備見学とともに意見交換した。第2回は12月3日に東邦ガス株式会社・技術研究所様を訪問し、2050年カーボンニュートラル(CN)に向けた取り組みについて、意見交換ならび設備見学した。CO2分離・回収システム、水素製造技術、合成メタンの利用などの技術が紹介され、将来を見据えた新たなエネルギーの利用技術についての知見を得た。

3. 日本アルミニウム協会との連携

日本アルミニウム協会主催で開催の産学懇談会に参画し、情報交換した。2024 年 12 月 6 日には産学懇談会施設見学が「JR 東海 浜松」で開催され、新幹線のリサイクル技術について工場見学による解体作業と部品の再利用、アルミニウム合金のリサイクルシステム等につき情報交換ならびに議論した。日本アルミニウム協会の研究助成事業では、2024年度成果報告 9 件については春期大会での講演、また 2025 年度については 7 件のテーマが選考され、同様に春秋大会での講演とともに、論文執筆依頼を進めていく。大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与貸与事業にも参画いただき、子供向け学習教材「アルミなるほどミュージアム」冊子供与の協力を得た。その他、日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ 2025」の改訂を踏まえ、アルミニウム関連に加えてチタンとマグネシウムを含む軽金属学会「サイエンスロードマップ」を見直し、アルミニウム関連のサイエンスロードマップを日本アルミニウム協会に提供した。

4. 日本マグネシウム協会、日本チタン協会、軽金属溶接協会との連携

汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会が 2023 年度で完了し、後継部会として 2024 年度からマグネシウムのためのマテリアル DX 研究部会を設立し、日本マグネシウム協会メンバーにも参画いただく。日本マグネシウム協会の会議室で開催するなど連携した。

異種金属接合と組織形成メカニズムによる接合信頼性検討先行研究部会は、2025 年度から研究部会設立に向け、軽金属溶接協会の異材接合委員会と協議し、双方の強みを生かした研究成果を上げるべく情報交換した。

溶接・接合関連の春期・秋期講演大会ポスター発表において、軽金属溶接協会から優秀ポスター賞として、9 名(146 回春期大会 4 名、147 回秋期大会 5 名)が表彰された

5. 他学術団体、業界団体との連携

日本工学会主催の事務研に参画し、各学協会との活動状況や運営状況について情報共有した。日本金属学会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本チタン学会など、他学協会との研究発表、シンポジウムの共催、協賛、後援などを継続した。また、春秋大会において他学会との開催次期が重ならないよう、軽金属学会の大会開催日を提供した。「中高生夏の学校 2024」では昨年同様参画し、日本金属学会、日本鉄鋼協会と共同「実験コーナー」などでアルミなど金属材料の魅力を PR した。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第 4 条第 1 項第 3 号)

1. 会誌「軽金属」等の編集発行

本年度は、第 74 巻 4-12 号、第 75 巻 1-3 号までの 12 冊を、うち、第 74 巻 8 号は「アルミニウム合金の接着接合」特集、第 75 巻 2 号は「7000 系アルミニウム合金の時効析出と諸特性」特集、第 75 巻 3 号は「軽金属の加工熱処理工程における組織形成」特集として刊行した。第 74 巻 9 号は「アルミニウムによる脱炭素社会への取組み 3」ミニ特集として、毎年 9 号に刊行する計画としている。掲載内容の分類は以下のとおりである。2030 年以降、将来の会誌電子化に向けた検討を開始した。

区 分	編数	区 分	編数	区 分	編数
巻頭言	4	連載講座	10	はぐくむ	2
研究論文	34	随想	8	研究部会紹介	6
速報論文	1	LM コラム	6	私の一枚	0
解説	11	研究室／研究所紹介	0	学会便り	14
技術報告	4	維持会員紹介	0	支部便り	10
年間レビュー	12	国際会議便り	4	ダイバーシティリレーエッセイ	8
座談会	1	支部特集	13	掲載総数	148

2. 研究部会報告書の発行

2023 年度終了した 5 研究部会のうち 3 研究部会の報告書を発行した。

No.	名 称	発行 年月日
87	アルミニウム中の水素と材料物性	2024 年 11 月 30 日
88	LPSO/MFS 構造材料研究部会報告書	2025 年 3 月 31 日
89	アルミニウム合金の接着接合	2025 年 3 月 31 日

3. その他刊行物

名 称	発行 年月日
第 146 回春期大会講演概要(冊子体、電子版)	2024 年 4 月 12 日
第 132 回シンポジウム「カーボンニュートラルに対応する自動車へのアルミニウム活用最前線」	2024 年 8 月 2 日
第 147 回秋期大会講演概要(冊子体、電子版)	2024 年 10 月 10 日
第 133 回シンポジウム「アルミニウム産業の CN・CE に向けた最新技術」	2024 年 12 月 10 日
第 134 回シンポジウム「アルミニウムの水素脆化・応力腐食割れの最前線」	2025 年 3 月 11 日
第 135 回シンポジウム「アルミニウム産業における GHG 排出量削減取組みの最前線」	2025 年 2 月 26 日

[4]研究及び調査の実施(定款第 4 条第 1 項第 4 号)

研究委員会は、2023 年度終了部会の後継部会として立ちあげた 4 テーマ「押出加工中の溶着制御技術検討研究部会」、「アルミニウム合金中の水素評価研究部会」、「マグネシウムのためのマテリアル DX 研究部会」、「キンク研究部会」、ならびに、2023 年度の先行研究部会活動から立ち上げた 3 テーマ「アルミニウム(合金)の不純物制御研究部会」、「アルミニウム層の合金判別研究部会」、「アルミニウム溶解工程における Mg,Fe 低減技術研究部会」の計 7 テーマを新設し、既設の部会を含む合計 14 テーマの研究部会と、1 年間期間延長した先行研究部会 6 テーマにより研究事業を推進した。研究委員会は、計 20 テーマの方針と進捗の確認、ならびに、研究委員会活動の将来展望等について議論した。各研究部会から活動の報告がなされ、各研究部会の研究結果や成果を委員会で協議した。研究部会の成果は春秋大会のテーマセッションでも報告された。すなわち、第 146 回春期大会では「軽金属の加工熱処理工程における組織形成」、「LPSO/MFS 構造の材料科学(VIII)」、「アルミニウム合金中の水素挙動と材料物性」、「マテリアルズ・インフォマティクスによる材料開発」の 4 セッション、第 147 回秋期大会では「アルミニウム合金のひずみ速度感受性およびそのモデル化」、「6000 系アルミニウム合金の相変態挙動と材料特性」、「7000 系アルミニウム合金の時効析出と諸特性」の 3 セッションを実施した。また、2023 年度末から 1 年間期間延長した「マテリアルズ・インフォマティクス研究部会」は、活動を完了した。2024 年度で 4 年目を迎えた「6000 系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会」は活動完了とし、2025 年度から後継部会として「6000 系アルミニウム合金の相変態挙動および材料物性に関する研究部会」として新設した。同 4 年目の「アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会」は 1 年間期間延長することとした。先行研究部会テーマの内、4 テーマは「アルミニウム産業に関する工学的かつ経済学的な計量計算研究部会」、「異種金属接合材の組織形成と信頼性に関する研究部会」、「水素貯蔵・輸送用アルミニウム合金研究部会」、「サーマルマネジメント材料技術研究部会」として新設研究部会として立ち上げることとした。残る先行研究部会 2 テーマ「次世代アルミニウム溶解技術先行研究部会」、「アルミニウム表面処理廃液課題検討先行研究部会」は、部会内および研究委員会で審議の結果、現時点では研究部会化はしないことを決定し、活動を完了した。2024 年度の 14 研究部会および 6 先行研究部会の活動成果概要を下表に示す。

No.	部会名	課題	2024 年度研究成果概要
508	マテリアルズ・インフォマティクス研究部会 【開催期間】 2020年4月・2025年3月末 (1年延長)	データベースを中心としたプロセス・材料組織・材料特性の相互の関係を機械学習により分析するシステムの検討および開発を行い、これらの技術を軽金属材料の研究・開発に適用することを目指す。尚、本研究部会では実験データの収集・分析に重点を置き、補完的に理論計算を行う。	開催 3 回(2024 年 5 月 10 日、10 月 19 日、2025 年 1 月 17 日)。 【活動内容】 ①メインサーバーをクラウドサーバーから大学内サーバーに移行することにより作業効率を向上。 ②Raspberry Pi 等の IoT 機器にインストールして測定器の制御および計測を行うクライアントサイドアプリ(MaterInfoDevs)の開発を実施。さらに、これに第一原理計算および熱伝導計算等の計算ジョブを実行できる機能を追加した。これによりサーバーサイドアプリ(MaterInfo)から計測制御および計算ジョブの投入ができるようになった。 ③ADC12 の冷却曲線(プロセス)、組織画像(材料組織)および引張特性(材料特性)を MaterInfo によって特徴量抽出した後、機械学習(主成分分析、分類、回帰)を実施。
509	アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会 【開催期間】 2021年4月・2026年3月末 (1年延長)	新しい測定法、精度を議論し、これまでのデータの見直し、新規データの取得を行うとともに、材料組織と力学特性との関係を明らかにし、成形や衝突のシミュレーション高精度化のため、ひずみ速度感受性に関する材料モデルおよびパラメータの適正化を行うことを目的とする。	開催 2 回(2024 年 7 月 5 日、12 月 20 日)。 テーマセッション「アルミニウム合金のひずみ速度感受性およびそのモデル化」(147 回秋期大会・講演 9 件)開催。 【活動内容】 ①共通試料による評価 ・9 種の押出材を製造。A6082 ベースで Si、Fe、Cu を規格範囲外まで添加し、ひずみ速度感受性の調査を進めた。 ・デジタル画像相関法による応力・ひずみ曲線の評価し、シミュレーションと実験との相関比較を実施。 ・データベース化の推進のため、データベースの形式を決定し、データの共有化を実施した。 ②部会内講演 金属材料の組織解析、引張試験データのフォーマットに関する提案、ハイドロショットについて、高速引張試験の技術紹介。
510	6000系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会 【開催期間】 2021年4月・2025年3月末 (完了) ⇒後継部会設立	二段時効の負の効果など工業的にも問題となる本系合金特有の諸現象についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動やβ'相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。	開催 2 回(2024 年 7 月 29 日、2025 年 2 月 7 日) ・公開セミナーを開催(2025 年 2 月 7 日) ・Dr. Marioara (SINTEF): Atomic Clusters and GP-zones in Al-Mg-Si(-Cu) Alloy 他 ・テーマセッション「6000 系アルミニウム合金の相変態挙動と材料特性」(第 147 回秋期大会・講演 8 件)開催 【活動内容】 当初部会共通試料を作製し、参画委員の得意な分析・実験手法でデータを取得し議論することも模索したが、時間的ならびにデータ取得の難易度を勘案し、公表済みの研究成果を紹介し合う形で部会を運営した。 多くの話題提供講演を通して、6000 系合金の相変態や原子構造、工業的な利用に関する最新の情報を共有知とすることができた。
511	7000 系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会 【開催期間】 2022年4月・2026年3月末 (継続中)	7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動について、多角的な解析を行い、①時効初期の微視組織形成メカニズムの解明、②焼き入れ時の冷却速度と強度、組織、耐SCC性との関係解明、7000系ベークハードプロセスの可能性を見出す。	開催 4 回(2024 年 5 月 31 日、11 月 28 日、12 月 12 日、2025 年 3 月 28 日)。 ・学会誌に特集「7000 系アルミニウム合金の時効析出と諸特性」(2025 年 2 月: 論文 5 報、解説 1 報執筆) 掲載 ・テーマセッション「7000 系アルミニウム合金の時効析出と諸特性」(第 147 回秋期大会・講演 8 件)開催 【活動内容】 7000 系板材の焼入れ速度に及ぼす時効特性および耐 SCC 性への影響(炉冷条件を変化させた場合の時効挙動の変化)を比較調査し、さらに、板材と押出材の比較調査を実施。
512	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会 【開催期間】 2024年4月・2027年3月末	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術の現状と将来期待される姿について議論し、最終的には、デジタル技術を活用した圧延機・付帯設備のスマート化に繋げる。	開催 4 回(2024 年 6 月 14 日、9 月 20 日、12 月 6 日、2025 年 3 月 21 日)。 【活動内容】 ①圧延機構成図作成、センサー活用事例一覧表のフォーマット確認、あるべき姿の提案を実施 ②圧延機構成図作成進捗確認、センサー活用事例一覧表の作成進捗確認、あるべき姿の提案(報告冊子での取扱い方針)、

	(継続中)		部会紹介の軽金属投稿用記事確認 ③圧延機構成図完成確認 センサー活用事例一覧表のフォーマット確認 ④センサー活用事例一覧表を暫定完成、活用事例集作成進捗確認
513	アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会 【開催期間】 2023年4月-2026年3月末 (継続中)	アルミニウム溶湯と接する耐火物の特性は、炉の性能・寿命のみならず、溶湯品質にも影響を及ぼす。そこで、耐火物劣化因子に関する理解を深め、当該分野の開発に係る新たな知見を蓄積し、溶湯品質の向上および耐火物の開発に繋がる知見を得る。	開催3回(2024年3月4日、7月19日、12月5日)。 【活動内容】 ①アルミナ-シリカ系耐火物のCa成分による劣化評価 ②耐火物劣化因子を考慮した新しい耐火物の検討 ③溶湯流動による耐火物の溶損評価 ④アルミナ質以外の耐火物のアルミニウム溶湯による劣化挙動調査 【活動実績】 ①Ca成分の影響 ・Al_2O_3・CaOの一部はアルミニウムにより還元されることが判明 ・Siは骨材がアルミニウムにより還元されることにより混入しやすいなることを見出した ②アルミナ質以外の耐火物劣化 ・SiC質耐火物も条件により「溶湯/耐火物」界面から劣化する ・SiC質耐火物の劣化部は単相単色(黒色)に見えるが、複数の相から構成されることが判明
514	中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会 【開催期間】 2023年4月-2027年3月末 (継続中)	アルミニウム合金板材の引張曲げ変形での変形抵抗式を構築において、圧盤・試験片間の摩擦の影響や温度差による材料内部のひずみ・温度の分布などの影響を除くことが課題。これらの影響を軽減する新たな試験方法の開発もしくは解析における補正の方法について、詳細に検討する。	開催4回(2024年12月10日、12月13日、2025年2月20日、3月27日) 【活動内容】 ①単純せん断による変形抵抗取得:中高温せん断試験実施 ②A6063 板材による試験の実施:圧縮試験、せん断試験、引張試験の実施、 ③単純ねじり試験の実施:ねじりの加工硬化を考慮した提案式の検討 ④6000系アルミニウム合金板の高温変形と時効硬化のひずみ依存性調査
601	押出加工中の溶着制御技術検討研究部会 【開催期間】 2024年4月-2028年3月末 (新設)	組織の違いにより生じる表面欠陥、機械的特性のばらつきに対して押出加工条件や工具形状で改善が図れるか否かの議論に用いることができる数値シミュレーションの開発を進める。用いる組織予測式の開発には、各種アルミニウム合金の組織変化の特性を把握する必要があるため、組織分析の実験も並行して進める。	開催2回(2024年6月20日、10月11日)。 【活動内容】 参画会員の押出プレスを利用して A6063 中空材を作成し、材料組織予測や集合組織予測を行うシミュレーションとサンプル分析の結果を比較検討して溶着部の品質予測技術の向上を図る。初年度は、前部会から引き継いだ押出ダイスで作成したサンプルの分析を始め、DEFORM-3DとQFORMでシミュレーションした。 【次年度方針】 引き続き材質予測と集合組織予測を試み、A6063 押し出しサンプルの分析を進めるとともに、A7003もしくはA7075での押出実験を検討する。
602	アルミニウム合金中の水素評価研究部会 【開催期間】 2024年4月-2028年3月末 (新設)	アルミニウムに過飽和に固溶する原子状水素とそれが分子状水素として析出したポアやブリスターなどのマイクロ欠陥の生成、成長および消滅、およびそれらがアルミニウムの材料物性に及ぼす影響を調査し、水素やマイクロ欠陥制御による特性改善の可能性を議論する。	開催3回(2024年5月28日、9月9日、2025年3月27日)。 【活動実績】 (1)外部講師の講演による情報提供 ・九州大学 高桑 脩(2024年9月) ・関西大学 春名 匠(2025年3月) (2)部会委員の講演による情報交換 ・東北学院大学 北條智彦:張出し加工したTM鋼の水素脆化挙動、アルミニウム合金の水素放出挙動 ・東北大学 柿沼 洋:導電性ポリマーを用いた金属中を拡散する水素の二次元分布の可視化 ・新居浜高専 真中俊明:表面塑性加工によるAl-Zn-Mg-Cu系合金の水素脆化抑制 など
603	マグネシウムのためのマテリアルDX研究部会 【開催期間】 2024年4月-2028	マグネシウム合金開発へのマテリアルDX(データ科学を活用した研究開発の効率化・高速化と、これらを通じた研究開発環境の魅力向上)の適用可能性を検討する。マグネシウム	開催4回(2024年6月19日、9月16日、2025年1月9日、3月26日)。 【年度目標】 マグネシウムに関する実験データをデータベース化して、データ駆動型研究開発を進めるための準備段階として、材料解析クラウドサービスを用いて実施できる項目を調査する。また、参加者が

	年3月末 (新設)	の機械的特性, 成形性, 耐食性等を対象として, データ科学を専門としない研究者が利活用可能なマテリアルDX技術を創出する。	保有する既存のマグネシウムに関する実験データ(データベース)の状況を確認する 【活動実績】 ・材料解析クラウドサービスの利用可能性検討 ・マグネシウムに関する実験データベースの状況確認 (ISMA 難燃性 Mg 合金 DB 利用可能性検討)
604	キンク研究部会 【開催期間】 2024年4月・2028年3月末 (新設)	ミルフィーユ構造(MFS構造)は、Mg合金のみならずAl合金やTi合金においても形成される可能性が高く、軽金属材料に革新をもたらすことが期待される。そこで、軽金属材料を中心にLPSO構造やMFS構造を持つ新物質の創製を試みるとともに、その構造とキンクの制御により高強度の軽金属材料の創成を試みる。	開催3回(2024年9月6日、11月7日、12月2日)。 テーマセッション「キンク強化理論の基礎を考える」(第146回春期大会・講演17件)開催 【年度目標】 ①Mg基、Al基、Ti基の硬質/軟質層状物質の創製を試みる。 ②キンク強化メカニズム解明の体制を構築する。 ③春期講演大会のテーマセッション「キンクの材料科学」の実施。 ④研究部会を3回開催して、物質創製の方針ならびにメカニズム解明の方針と体制を議論して決定する。 【活動実績】 ①研究部会の開催(年3回) ②講演大会テーマセッションの開催(年1回) ③国際会議セッションの企画 ④前研究部会の報告書の作成
605	アルミニウム(合金)の不純物制御研究部会 【開催期間】 2024年4月・2028年3月末 (新設)	サーキュラーエコノミーの実現に向けたアルミニウム合金のリサイクルでは、不純物元素の制御が不可欠である。さらに、不純物除去や不純物制御による許容量拡大が併せて必要になる。そこで本研究部会では、不純物増加に伴う材料特性への影響および改善方法について、品出物等のマイクロ組織的要因と結びつけて明確化を進める。	開催3回(2024年7月24日、10月11日、2025年1月27日) 【活動計画】 ①ターゲット部品を決め、混入不純物の影響、改善手法を検討。 ②不純物増加に対する状態図計算の妥当性検証(casting材・ダイカスト材) ③製造形態の変更によるスクラップ用途拡大検討(不純物許容の検討) ④不純物元素の影響を低減させる方法の検討 ⑤クロスオーバーアロイなど、新たな合金開発の概念や方向性議論 【活動実績】 ・先行研究部会の内容確認、実施事項決定 ・課題案に対する意見交換
606	アルミニウム層の合金判別研究部会 【開催期間】 2024年4月・2028年3月末 (新設)	アルミニウムにおけるスクラップ利用の課題は、アルミニウム以外の金属の混入やアルミニウム合金が混合されることによる不純物元素の増加であるため、スクラップ(固相状態)で適切な選別を行うことが必須である。そこで本研究部会では合金判別のための基礎データを構築し、選別技術発展の礎を築くことを目的に活動を実施する。	開催2回(2024年5月27日、8月27日) 【活動計画】 高度選別技術(LIBS)を用いずに、アルミニウム層の合金判別を図るために、各種アルミニウム合金の物性値、機械的性質、表面処理性、破断・破砕形状等のデータを整備する。 【活動実績】 ・昨年度の先行研究部会での取組みの振り返り ・4年間の部会活動を通じた到達目標の確認 ・2024年度の実施項目に関する議論 ・当部会が判別に取組むスクラップ対象の再確認 ・破砕形状に関する先行調査結果の協議
607	アルミニウム溶解工程におけるMg,Fe低減技術研究部会 【開催期間】 2024年4月・2028年3月末	将来的なCNへの対応として市中スクラップの更なる利用要求が高まっているなか、市中スクラップを溶解したアルミニウム溶湯中ではMgやFe成分値が増加し、これに伴い製品の品質低下が懸念される。本研究部会では、アルミニウム溶解工程におけるMgとFeを除去する技術として、酸化物によるMgの除去と、B化によるFeの除去についてフラックスの有効利用法も含め、基礎的な検討と生産現場へ実装可能なプロセスを検討する。	開催3回(2024年5月23日、7月3日、2025年3月5日) 【活動実績】 ①脱Fe、脱Mgの対象とする合金組成と濃度の低減目標設定 ・脱Mg: A3003合金, ADC12合金/脱Fe: A3003合金, A6063合金, ADC12合金, 純アルミニウム ②北海道立総合研究機構 高橋英徳先生によるご講演、勉強会 ③対象とする合金組成におけるFe、Mg濃度低減の熱力学解析 ④その他共有事項の確認 ・発足の経緯確認、成果報告書の取り扱い、知財権の取扱いについて共有 ・予算ならびに部会費からの設備等資産の購入について協議 ・脱Fe論文の妥当性について協議 など

【先行研究部会】

	先行研究部会 名	課題と検討概要	活動実績
517	アルミニウム産業に関する工学的かつ経済学的な計量計算 先行研究部会	将来の脱炭素社会の構築に向けて、アルミニウムの軽量性、リサイクル性、伝導性等を訴求するため、工学的かつ経済学的に検証されたアルミニウムの特質に関する数値の確立が必須。マテリアルフロー、CO ₂ 負荷、CO ₂ 削減の3分野の軽量計算を実施。また、外部講師による情報提供などにより本テーマの必要性を確認。数値計算により国際的リーダーシップを目指した活動を行うため、研究部会を新設する。	3回開催 2024年5月25日、10月31日、 2025年3月10日 ・研究部会新設
519	異種金属接合と組織形成メカニズムによる接合信頼性検討 先行研究部会	接合界面組織と分析による接合メカニズムの解明するため、研究部会を新設する。本先行研究部会では以下を決定。自動車・電装部品を対象部品とし、異種金属接合の組合せはアルミニウム/鉄鋼、アルミニウム/銅で検討することを決定。アルミニウム合金は1000、3000、6000系、相手側の異種金属として鉄鋼はSUS304 とハイテン、銅合金はC1020とする。接合技術は重ね接合とし、点接合(抵抗溶接、摩擦圧接)、線接合(FSW、レーザー、電磁圧接)を実施する計画。	3回開催 2024年5月30日、8月23日、 10月17日 ・研究部会新設
520	サーマルマネジメント材料技術 先行研究部会	熱エネルギーに関わるさまざまな問題を取り扱うサーマルマネジメント材料と軽金属との関わりを明確化し、アルミニウムをはじめとする軽金属材料の新用途開発への展開を目的とし、ニーズの把握、情報交換・話題提供を実施。サーマルマネジメント材料の利用状況などを調査し、活動内容を、放熱材料、断熱材料、新エネルギー変換材料への展開を目指すことで具体化できたため、研究部会を新設する。	3回開催 2024年10月、 12月 2025年2月 ・研究部会新設
521	アルミニウム表面処理廃液課題検討 先行研究部会	アルミニウムの表面処理ライン等で排出される廃液を低コストで無害化し、さらに可能であれば原料としての再生化を目指し、その可能性を追求した。表面処理メーカーへのアンケートを実施し、研究部会設立の可能性を検討した。各社の持つ設備を実際に見学し、廃液処理の現状を把握。各社の処理条件が異なり、また専門業者による処理が多く共通化に資する活動が難しいことなどにより、研究部会化は断念。	2回開催 2024年 6月19日、10月18日 ・研究部会断念
522	H ₂ 貯蔵用アルミニウム合金 先行研究部会	アルミニウム合金は、H ₂ 貯蔵用材料として使用されているが、使用実績のある合金は少なく、また特に高圧下での使用可能な合金は限定されている。水素環境下での使用に適したアルミニウム合金を選定し、それらを使用する上で必要な評価基準を設定することを目的に研究部会を新設する。液体水素と高圧水素ガスの2グループ体制で評価を進める。高圧ガスはHGCG試験を主に実施。液水の評価は2026年から実施予定。	2回開催 2024年10月23日 2025年1月 ・研究部会新設
523	次世代アルミニウム溶解技術 先行研究部会	アルミニウムの溶解時の燃料として水素やアンモニア、電気等が提案されており、非化石燃料の利用推進は、業界全体で取り組むべき課題のため、各溶解方法導入の基礎とすべく、情報を精査し課題を明確化した。各種加熱方式を整理し議論。しかし、安全の確保ならびに完全に関わる法規・指標の重要性が明らかとなり、また、各種燃料による溶解技術の開発・実証は設備面での課題が大きいことも判明。現段階で部会化することは断念。	2回開催 2024年6月 2025年2月 ・研究部会断念

【5】研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

それぞれ選考委員会において選考し、理事会での承認を得て、(1)および(7)1)を2024年5月開催の第146回春期大会にて表彰、(2)～(5)および(7)2)を2024年11月開催の第147回秋期大会にて表彰した。(6)は2024年3月上旬に表彰楯を各大学、高等専門学校へ送付し、卒業・修了など相応しい時期に表彰を託した。

(1)2024年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

佐々木元選考委員長のもと、3つの賞について審議の結果、学会賞は応募2名から1名を、功労賞は応募5名から特別功労賞1名、功労賞2名を、功績賞は応募7名のうち3名をそれぞれ下記のとおり選考した。2024年5月開催の第146回春期大会にて表彰した。

1)第27回軽金属学会賞	九州大学 教授	中島 英治 君
2)第26回軽金属学会特別功労賞	株式会社 UACJ	小山 克己 君
第26回軽金属学会功労賞	YKK AP 株式会社	谷畑 弘之 君
	いすゞ自動車株式会社	茂泉 健 君
3)第22回軽金属功績賞	兵庫県立大学 教授	足立 大樹 君
	東京大学 教授	御手洗容子 君
	株式会社 UACJ	箕田 正 君

(2)2024年度軽金属論文賞・論文新人賞

柴柳推薦委員長のもとで論文賞対象論文49編の内7編、新人賞対象論文編(21名)の内7編の論文を推薦し、奥田選考委員長のもとで2編(10名)の論文賞、4名の新人賞を選考した。

1)論文賞

①「単結晶マイクロピラー圧縮試験を用いた Al-Fe 合金積層造形体の高強度支配因子の検討」

第 73 巻 11 号(2023), 523-529 掲載

名古屋大学大学院(現 トヨタ自動車株式会社)	長子 明弘 君
名古屋大学大学院	朱 天齊 君
名古屋大学	高田 尚記 君
名古屋大学	鈴木 飛鳥 君
名古屋大学	小橋 眞 君

②「Visco-Plastic Self-Consistent シミュレーションを用いたマグネシウム合金 AZ31B 温間圧縮時のすべり系解析」

第 74 巻 2 号(2024), 73-82 掲載

名古屋大学大学院、産業技術総合研究所(現 物質・材料研究機構) 松岡 佑亮 君	
産業技術総合研究所	Bian Mingzhe 君
名古屋大学	塚田 祐貴 君
名古屋大学	小山 敏幸 君
産業技術総合研究所	千野 靖正 君

2)論文新人賞

①「141 Wm-1K-1 の高熱伝導率をもつ Mg-1.88Zn-0.75Y 铸造合金」

第 74 巻 4 号(2024),180-187 掲載

熊本大学大学院	王 運生 君
---------	--------

②「単結晶マイクロピラー圧縮試験を用いた Al-Fe 合金積層造形体の高強度支配因子の検討」

第 73 巻 11 号(2023), 523-529 掲載

名古屋大学大学院(現 トヨタ自動車株式会社)	長子 明弘 君
------------------------	---------

③「Al-Zn-Mg 合金における水素脆化発生挙動のマルチモーダル 3D イメージベース解」

第 73 巻 11 号(2023), 530-536 掲載

九州大学大学院	比嘉 良太 君
---------	---------

④「Visco-Plastic Self-Consistent シミュレーションを用いたマグネシウム合金 AZ31B 温間圧縮時のすべり系解析」

第 74 巻 2 号(2024), 73-82 掲載

名古屋大学大学院(現 物質・材料研究機構)	松岡 佑亮 君
-----------------------	---------

(3)第 58 回小山田記念賞

佐々木元選考委員長のもと、応募 2 件について選考委員会によるプレゼンテーション審査の結果、当該技術 1 件を選考した。
「オールリサイクル飲料用アルミボトル缶の開発と実用化」

アルテミラ株式会社	古柴 学 君
〃	小嶋 駿介 君
〃	実末 一 君
〃	湯田 晃典 君
MA アルミニウム株式会社	丸野 瞬 君
〃	澤谷 拓馬 君
〃	鈴木 貴史 君
〃	岩尾 祥平 君

(4)第 47 回高橋記念賞

松田健二選考委員長のもと、各支部からの推薦 4 件について選考委員による書面審査の結果、4 名を選考した。

株式会社神戸製鋼所	高橋 貴朗 君
堺アルミ株式会社	田辺 宏治 君
日軽エムシーアルミ株式会社	辻本 康典 君
株式会社 UACJ	阪野 義和 君

(5)軽金属躍進賞・奨励賞・女性未来賞

中沢 靖選考委員長のもと、3 つの賞について審議し、躍進賞は応募 6 名から 3 名を、奨励賞は応募 5 名から 3 名を、女性未来賞は応募 1 名から 1 名を選考した。

1)第 23 回軽金属躍進賞

東北大学	上田 恭介 君
株式会社 UACJ	大谷 良行 君
地方独立行政法人大阪産業技術研究所	木村 貴広 君

2)第 42 回軽金属奨励賞

株式会社 UACJ	鈴木 太一 君
長岡技術科学大学	中田 大貴 君
新居浜工業高等専門学校	真中 俊明 君

(6)2024 年度軽金属希望の星賞

各支部からの一次推薦 37 名について、総務委員会による二次選考の結果、33 名を選考した。

所 属	氏 名	所 属	氏 名
室蘭工業大学大学院・修士課程	青野 竜也	千葉工業大学大学院・修士課程	藤木 恭典
旭川工業高等専門学校	高田 りん	千葉大学大学院・修士課程	神田 太郎
弘前大学大学院・修士課程	坂東 航	富山大学大学院・修士課程	前田 健二郎
岩手大学大学院・修士課程	土屋 昇大	富山大学大学院・修士課程	藤本 和伸
東京都立大学大学院・修士課程	小幡 勇太郎	富山大学大学院・修士課程	八木 隆暁
群馬大学大学院・修士課程	上野 颯	名古屋大学大学院・修士課程	北 竣太
群馬工業高等専門学校	城 敦士	名古屋工業大学大学院・修士課程	鎌田 航大
工学院大学大学院・修士課程	楠山 翔太	大同大学大学院・修士課程	鳥越 翔真
千葉大学大学院・修士課程	兼松 稜	神戸大学大学院・修士課程	山口 汰生
芝浦工業大学大学院・修士課程	東海林 瑞希	兵庫県立大学大学院・修士課程	井戸本 涼平
群馬大学大学院・修士課程	北原 悠真	兵庫県立大学大学院・修士課程	村上 翔太
群馬大学大学院・修士課程	山本 雄太	新居浜工業高等専門学校	沖元 研人
千葉工業大学大学院・修士課程	布施 直哉	香川大学大学院・修士課程	金丸 岬
芝浦工業大学大学院・修士課程	古殿 幸祐	熊本大学大学院・修士課程	廣岡 巧真
長岡技術科学大学大学院・修士課程	壽 龍治	熊本大学大学院・修士課程	土山 廉平
群馬大学大学院・修士課程	坂口 裕樹	九州大学大学院・修士課程	稲森 彰人
芝浦工業大学大学院・修士課程	高木 颯		

(7)優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞

本賞は春秋大会で行われるポスターセッションで発表した優秀者に贈る賞で、2024 年度は以下の通り春期大会で 14 名、秋期大会で 21 名を表彰した。このうち、第 135 回秋期大会より新設した優秀英語ポスター発表賞は春期大会で 2 名、秋期大会では 4 名を表彰した。

1)第 146 回春期大会

題 目	所 属	氏 名
5000 系/7000 系クロスオーバーアルミニウム合金の水素脆性解析	岩手大学	土屋 昇大
3DAP による Al-Zn-Mg 合金中の粒界・粒内析出物のトラップ水素解析	岩手大学	阿部 李音
ボロノイ分割で設計したアルミニウム合金セル構造体の伝熱特性および圧力損失の数値流体力学計算及び機械学習代理モデリング	名古屋大学	小倉 広耶
Ti ₃ C ₂ MXene/セルロースナノファイバーを修飾したアルミニウム負極を利用したアルミニウムイオン電池の作製と評価	芝浦工業大学	藤原 由奈
In-situ XRD/DIC 同時測定を用いた A1200 アルミニウムにおける局所変形領域の観察	兵庫県立大学	稲村 慧
二段時効処理を施した Al-Zn-Mg 合金の機械的性質とミクロ組織観察	富山大学	八木 隆暁
タイプ A+B セレクションを示す Al-Mg 合金の In-situ XRD/DIC 同時測定	兵庫県立大学	村上 翔太
コールドスプレー法で造形された Ti-Ni-Zr 合金薄板のマルテンサイト変態に及ぼす熱処理条件の影響	東京大学	大島 健太
マルチモーダル組織を有する Mg ₉₇ Zn ₁ Y ₂ 合金押出材の室温引張・圧縮変形挙動の調査	熊本大学	堀口 皓匠
マルチモーダル組織を有する Mg-Zn-Y 合金における圧縮クリープ挙動の溶質濃度依存性	弘前大学	坂東 航
予圧縮と熱処理がマルチモーダル組織を有する Mg-Zn-Y 合金押出材の室温変形挙動に与える影響	弘前大学	高橋 大佑
γ-TiAl 基合金の粒界反応型析出におよぼす α ₂ /γ ラメラ組織の影響	千葉大学	神田 太郎
水蒸気プロセスによる AlN/AlO(OH)複合皮膜の作製および熱伝導性の評価	芝浦工業大学	鈴木 啓太
Al-Zn-Mg 合金の半凝固ダイカストにおける電磁攪拌温度がスラリーのミクロ組織に及ぼす影響	芝浦工業大学	六沼 実優
静電浮遊法にて熔融凝固させた TiC 添加 Ti-6Al-4V 球形試料の 3 次元 β 粒数取得	早稲田大学	門井 洗衛
Microstructure observation of T-phase in Al-Zn-Mg alloy with low Zn/Mg ratio	富山大学	Abrar Ahmed

※ハッチングの2件が優秀英語ポスター発表賞

2)第 147 回秋期大会

題 目	所 属	氏 名
Mg/LPSO 複相合金押出材の引張塑性異方性発現メカニズム	名古屋工業大学	杉田 三佳
水蒸気プロセスを用いて Al-Mg-Si 合金上に作製した AlO(OH)皮膜の耐食性に及ぼす高温酸化皮膜の影響	芝浦工業大学	白田 悠斗
初晶粒子を球状化した Al-6.4Si 合金の溶融挙動その場観察	早稲田大学	土田 菜摘
補助入熱を用いた A5052 アルミニウム合金箔材/C1020 銅板材の摩擦攪拌重ね点接合	宇都宮大学	小川 誠人
Fe 及び Mn を添加した Al-Si 鋳造合金の α -Al/ α -Al ₁₅ (Fe,Mn) ₃ Si ₂ 共晶組織の制御	名古屋大学	北 峻太
Mg-Zn 系合金押出材の微細組織、腐食特性および機械的特性に及ぼす添加元素と押出温度の影響	長岡技術科大学	東海 尚希
レーザ粉末床溶融結合法により作製した Al-Ti 合金の組織と機械的性質	東北大学	三浦 隆宗
溶融 Al-Zn 合金に浸漬した鋼板の固液界面反応に及ぼす合金元素の影響	名古屋大学	大見 泰央
構造が制御されたチューブ状アルミナフィルターの作製	東京都立大学	吉永 みのり
ポーラスアルミニウムと熱可塑性樹脂の摩擦圧接時における押し込み速度の検討	群馬大学	山本 雄太
Ti 基層状炭化物を析出させた TiAl 合金への Zr 添加の影響	熊本大学	坂本 青音
アルミニウムのアノード酸化に及ぼす電解液の pH 及びグリシン添加の影響	工学院大学	楠山 翔太
電磁凝固プロセスにより作製した Al-Si 共晶合金の引張特性	千葉工業大学	布施 直哉
加工 MgYZn 希薄合金の低温 CAL 形成過程におけるクラスター成長挙動の解析	京都大学	近藤 大樹
アルミニウムのアノード酸化における coating ratio と硫酸電解液濃度の関係	工学院大学	村田 優介
TiC ヘテロ凝固核粒子添加による Al-10mass%Si-0.4mass%Mg 合金の鋳造および積層造形組織への影響	名古屋工業大学	鮫嶋 美空
Al-Zn-Mg3元系合金過時効材の水素脆化挙動	茨城大学	熱海 聡多
A1050 アルミニウム/C1100 銅摩擦攪拌点接合体のポーラス化による易分離技術	群馬大学	柴崎 零
外部磁場を用いたアルミニウム合金抵抗スポット溶接におけるナゲットの形成状態と電極損耗	大阪工業大学	石川 新汰
アルミニウムのバイポーラアノード酸化時の皮膜生成効率に及ぼす電解液濃度の影響	工学院大学	佐竹 竜乃介
アルミニウム材料の長寿命化を目指した新規自己修復性表面層の開発	旭川工業高等専門学校	高田 りん
その場観察による laser powder bed fusion における純チタン粉末の周期的な溶融現象の評価	早稲田大学	若井 悠貴
アルミニウムイオン電池用 MXene ベース正極材の作製と評価	芝浦工業大学	藤原 由奈
強ひずみ加工を施した Al-Mg 合金のひずみ速度依存性に及ぼす溶質原子の影響	神戸大学	山口 汰生
ラボサイズ X 線小角散乱法を用いた A2618 合金と A2024 合金の高温特性評価	北海道大学	福田 深

※ハッチングの4件が優秀英語ポスター発表賞

[6]その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第 4 条 1 項第 6 号)

1. 人材育成

本部において、大学オープンキャンパスなどへの軽金属製品の供与・貸与事業を継続し、2024年度は夏以外に秋のオープンキャンパスなどを開催する大学へも対応した。小中高生、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。今回も特別維持会員および維持会員企業、日本アルミニウム協会の協力により、9校に製品を提供した。各校のオープンキャンパスの開催状況については報告記事「はぐくむ」を会誌、HPに掲載した。男女共同参画委員会では、昨年同様、男女共同参画学協会連絡会が後援し、8月10日～12日に開催された「女子中高生夏の学校2024～科学・技術・人との出会い」に参画し、全国の女子中高生に対して金属および軽金属に興味を持っていたため軽金属学会ポスター展示、缶製造サンプル、金属材料質量比較サンプルなどの展示説明のほか、「実験」「実習」などを行った。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

(1)若手の会

第46回会合：第146回春期大会(5月12日(日))にハイブリッド式で開催した。大学3名、学生21名、企業11名、会員の子供2名の合計37名が参加。(株)UACJ・江目氏による話題提供があり、活発に意見交換された。

第27回若手育成のための合同会合：第146回春期大会(5月10日(金))に開催した。大学2名、学生2名、企業6名、の合計10名が参加。

第2回若手の会見学会：第146回春期大会(5月10日(金))午前10時から、キリンビール(株)名古屋工場を見学。大学3名、学生10名、企業7名の計20名が参加。ビール製法、その後製造されたビールをアルミ缶に封入するパッケージング工程などを見学し、どのように最終製品に至るのかについて理解を深めた。

第47回会合：第147回秋期大会(11月10日(日))にハイブリッド開催した。大学3名、学生12名、企業11名、子供2名の合計28名参加。早稲田大学・高松聖美氏から「手段の目的化をやめよう」をタイトルで講演いただき、活発な質疑がなされた。

第28回若手育成のための合同会合：第147回秋期大会初日(11月9日(金))に開催し、大学2名、学生2名、企業4名の合計8名が参加。

(2)女性会員の会

第36回会合:第146回春期大会(5月11日(土))にハイブリッド式にて開催した。現地参加19名、オンライン参加3名の合計22名参加(女性16名、男性6名、うち初参加は社会人1名、学生2名の3名)。託児室利用の子供3名が参加。講演大会未登録者も参加可能とした。

託児室設置:第146回春期大会(ハイブリッド開催)は、名古屋大学東山キャンパス工学5号館3階に託児室と設定し、保育士は外部機関トットメイトに委託した。

第2回懇親会子供同伴:146回春期大会懇親会で2回目となる会員の子供を同伴した懇親会への参加を試行し、ノンアルコールエリアを設定した。

第37回会合:第147回秋期大会(11月9日(土))にハイブリッド開催した。参加者22名(女性18名、男性4名)。現地参加は18名、オンライン参加4名、幼児の参加1名(託児室利用者)。現地飛び入り参加あり。講演大会参加未登録者も参加可とした。

託児室設置:第147回秋期大会はハイブリッド開催とし、11月8~10日群馬大学・太田キャンパス近郊の託児室を利用。保育スタッフなどは(株)エフチャイルドに委託。

第3回懇親会子供同伴:147回秋期大会懇親会(11月9日(土))、昨年同様、会員の子供を同伴して懇親会参加が第3回目となる。前回同様、ノンアルコールエリアを設定。第4回から試行ではなく本設定とする。

(3)男女共同参画委員会

第10回男女共同参画セッション:第146回春期大会(5月11日(土))にハイブリッド開催した。名古屋大学上川内あづさ教授、田川美穂教授に「子育てで単身赴任教員ネットワーク」についてリレー形式で講演、研究(仕事)と子育ての両立について紹介いただいた。単身赴任の選択との対応、単身子育て教員同士で協力し合うネットワークによる包括的サポートなど興味深い話をいただいた。

第11回男女共同参画セッション:第147回秋期大会(11月9日(土))にハイブリッド開催した。株式会社リハプライム代表取締役小池 修氏から題目「自分のワークライフバランスはワクワクでデザインする!」とし、働く喜びと私生活の楽しさをどのようにつなげてキャリア形成をしていくかについて話題提供があった。次いで、群馬大学ダイバーシティ推進センター 副センター長 林はるみ教授から「ダイバーシティの推進とアンコンシャス・バイアス」という題目で、母性看護学の立場から男女を問わず無意識の思い込みで意思決定が左右されている事例や出産に対する男女の認識差などの紹介いただいた。

3. 中堅企業R&D支援

中堅企業の支援を目的に各支部で中堅企業支援セミナーを開催した。北陸支部では6月に株式会社神戸製鋼所 田淵佳明 氏から「飲料用アルミニウム合金板の現状と未来」、三協立山株式会社三協マテリアル社 菅谷 直也 氏から、「展伸用Al-Si合金の高温強度に及ぼす添加元素の影響」、武内プレス工業株式会社 新鞍 浩之氏から「ボトル缶の軽量化と今後について」の3件の招待講演を実施し、11月には広島大学 杉尾 健次郎 氏から「軽金属材料へのマテリアルズ・インフォマティクスの適用」、株式会社UACJ 江崎 智太郎 氏から「A3104アルミニウム合金板のFe/Si 比がマイクロ組織と機械的性質へおよぼす影響」、株式会社UACJ 高井 大地 氏から「UACJの環境に対する取り組み」の3件の招待講演を実施した。東海支部では、12月に軽金属支部セミナー「ハイレントロピー合金設計の新たな可能性」を開催し、招待講演として東京大学 御手洗 容子 教授より「ハイレントロピー合金の高温力学・機能特性と材料設計」、名古屋大学 勝部 涼司 講師より「その場観察を活用したマイクロ偏析フリーハイレントロピー合金の設計」、名古屋工業大学 徳永 透子 助教より「Ti基共晶ハイレントロピーミルフィューユ材料の創製可能性の検討」の3件の報告を実施した。中国四国支部では12月開催し、日本軽金属株式会社 堀 久司 氏から「モビリティの熱マネジメントを支える熱交換器の製造技術動向」、富山大学 附田 之欣 講師より「カーボンニュートラルのためのサステナブル軽金属蓄電池用負極材料」の2件の講演をこれらの取組みを通し、中堅企業会員へ軽金属の現状や将来への展望についての情報共有と技術交流を図った。

4. 支部活動

(1) 北海道支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部理事会、支部評議員会 5月にハイブリッドで予定	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ・支部会議 6月7日ハイブリッド開催 昨年度の事業報告(協賛事業報告, 表彰)と 2024年度予算, 活動計画について ・支部評議員会 11月1日室蘭工業大学にて 下期の活動などについて
2.講演会等	2. 講演会等
①支部講演大会 11月1日 室蘭工業大学にて開催予定	① 支部講演大会 ・11月1日 室蘭工業大学にて開催した。
②講演会 11月1日特別講演会開催予定	② 講演会 ・11月1日特別講演会を室蘭工業大学で実施した。講師:山内啓教授(群馬工業高等専門学校)
③他学協会支部講演大会等への協賛	③ 他学協会支部講演大会等への協賛

・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同サマーセッション(7月)と講演大会(2005年1月)に協賛 ・工場見学会とセミナーの協賛 (一社)表面技術協会と(公社)腐食防食学会北海道支部主催, 工場見学会と2024年北海道夏期セミナーに協賛 3.人材育成 ・若手育成支援事業 4.表彰関係 ・軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ・学生優秀講演賞 5.維持会員加入勧誘活動 ・訪問活動継続	・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同サマーセッション(7月, 札幌)と講演大会(2005年1月, 室蘭)に協賛した。 ・工場見学会とセミナーの協賛 (一社)表面技術協会と(公社)腐食防食学会北海道支部主催, 工場見学会と2024年北海道夏期セミナーに協賛した。 3.人材育成 - 本年度の実施予定なし 4.表彰関係 ・軽金属希望の星賞一次選考、2名(1名支部枠, 1名枠外)の推薦を行った。支部講演大会において, 1名に支部学生優秀講演賞を授与した。 5.維持会員加入勧誘活動 - 継続して実施予定
---	--

(2)東北支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会 2.講演会等 ①主催講演会 ②共催・講演会 3.人材育成 ①学生ポスターセッション 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考・授与 5.維持会員加入勧誘活動	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 3月18日運営委員会開催 2.講演会等 ①7月19日(金)学術講演会(弘前大) 3月18日(火)支部講演会イブニングセミナー開催(東北大) ② 共催・6月7日(金)青森表面技術講演会(八戸市) 共催・9月25日(水)国際講演会(仙台市) 共催・12月4日(水) 日本金属学会東北支部研究発表大会(弘前市) 3. 人材育成 ①金属学会東北支部研究発表大会ポスターセッション共催 4. 表彰関係 ①推薦者なし ②推薦者なし ③応募5名、推薦3名、受賞2名 ④金属学会東北支部研究発表大会ポスターセッション表彰2件 5. 訪問活動1件

(3)関東支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部総会(1回), 支部運営委員会(4回) 2.講演会等 ①第147回秋期大会(群馬大)の実行援助 ②工場見学会 3.人材育成 若手研究者講演発表会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 5.維持会員加入勧誘活動 セミナーや訪問活動を継続	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ・支部総会 2024年9月4日対面(工学院大学) ・第10回若手研究者ポスター発表会 WG 会合(5月23日オンライン形式) ・第1回運営委員会 2024年4月24日ハイブリッド形式 ・第2回運営委員会 2024年6月5日オンライン形式 ・第3回運営委員会 2024年7月31日ハイブリッド形式 ・第4回運営委員会 2024年12月18日オンライン形式 ・第5回運営委員会 2025年3月17日対面形式 2.講演会等 ・講演会 2024年9月4日対面 (1)「個人的異分野融合研究」山本 篤史郎(宇都宮大学) (2)「自動車会社における材料屋の役割」茂泉 健(いすゞ自動車株式会社) ・第147回秋期大会(群馬大) 実行委員としての援助 3.人材育成 第10回若手研究者ポスター発表会 2024年9月4日, 対面, 発表42件, 参加者約80名(工学院大学新宿キャンパス) 4.表彰関係 ・高橋記念賞推薦1件 ・支部賞(優秀ポスター賞など9件)選考・授与 ・希望の星賞一次選考18件, 推薦16件 5.維持会員加入勧誘活動 適宜実施 ・エアロエッジ株式会社の機器展示の援助(第147回秋期大会)

(4)北陸支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①定例幹事会(2回) ②大会実行委員会(2回) 2.講演会等 ①春期講演会 ②秋期講演会 3.人材育成 ①幹事研修会 ②若手育成支援事業 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属学会功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 5.維持会員加入勧誘活動	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ① 4月9日(火)於 富山大学 10月1日(火)於 富山大学 2. 講演会等 ①6月20日(木) 富山大学 56名参加 ②11月21日(木) 高岡市ウィングウィング(予定) 3.人材育成 ①幹事研修会:10月18、19日 富山県立大 射水キャンパス、富山大学 高岡キャンパス視察 ②若手人材育成事業:7月10日(水) 三協立山(株) アイシン軽金属(株)見学 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦:なし ②軽金属学会功労賞:YKK(株)谷畑弘之氏 ③軽金属希望の星賞一次選考3名推薦、3名授賞 5.維持会員加入勧誘活動:随時
特記事項) 1. ①春期講演会・中堅企業支援セミナー 招待講演:(株)神戸製鋼所 田淵佳明氏、三協立山(株) 菅谷直也氏 企業発表:武内プレス工業(株) 新鞍浩之氏 2. ②秋期講演会・中堅企業支援セミナー 招待講演:広島大学 杉尾健次郎先生、(株)UACJ 江崎智太郎氏 研究発表:(株)UACJ 高井大地氏 協賛事業 ①日本金属学会・日本鉄鋼協会北陸信越支部 (6月、11月) ②富山大学材料科学国際シンポジウム(ICPMAT) (9月30日～10月4日) ③国際先端材料フォーラム(11月) ④富山大学材料研究会 (10月、2月)特記事項)	

(5)東海支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会 ②理事会(3回、但し第1回は運営委員会と兼務) 2.講演会等 ①講演会(1回) ②研究部会(航空機材料部会等) 3.人材育成 ①若手ポスター発表会 ②若手の会(軽進会) ③女性会員の会 ④軽金属基礎講習会 ⑤中・高生向け工場見学会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③企業奨励賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ①支部セミナー ②TECH Biz 2024 :支部活動展示、講演会	1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会:2024年6月4日開催 ②第一回理事会・運営委員会:2024年7月8日 ③第二回理事会:2024年9月17日開催 ④第三回理事会:2025年3月17日開催 2. 講演会等 ①講演会:2024年6月4日(火)開催 ②航空機部会:2024年10月30日、12月12日、1月22日開催 3.人材育成 ①若手ポスター発表会:2024年11月15日開催...金属学会・鉄鋼協会 東海支部と合同開催 ③女性の会:2024年8月5日開催...日本鋳造工学会東海支部・先端鋳造プロセス研究部会女性の会と共催 12月6日工場見学会開催 ④軽金属基礎講習会:2025年3月19日開催(参加者43名、うち学生34名) ⑤中高生向け工場見学会:2025年2月24日開催 新東工業(株)体験学習 参加者33名 4. 表彰関係 ①高橋記念賞:日軽エムシーアルミ・辻本様&UACJ・阪野様受賞 ②軽金属希望の星賞:3名受賞 ③企業奨励賞:近藤工作所様受賞...維持会員申込 5. 維持会員加入勧誘活動 ①支部セミナー:2024年12月25日開催 参加者20名 ②Tech Biz 2024:2024年5月22～23日開催 Tech Biz 2025:2025年5月28～29日予定...講演会企画、ブース展示準備

特記事項)

- ・ダイバーシティ推進…①支部事業見直し(軽進会) ②他学会との共催:金属学会・鉄鋼協会東海支部(若手ポスター発表会)、日本鑄造工学会東海支部(女性の会)
- ・中高生参加を促す:(公財)中部科学技術センターとの連携が有効

(6)関西支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会・支部幹事会(2回) 2.講演会等 ①支部シンポジウム 3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール ②大学院生フィールドワーク助成プログラム ③若手研究者・院生による研究発表会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦、②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④企業奨励賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動 ②出前講座	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会・支部幹事会(2回) 第1回 2024年6月14日、第2回 2024年12月16日 2.講演会等 ①支部シンポジウム 日時:2024年9月9日 13:30~16:45、場所:大阪大学吹田キャンパス 備考:講演3件、参加者41名 3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール 日時:2024年9月9日 10:30~12:10、場所:大阪大学吹田キャンパス 備考:講義2件、参加者33名 ②大学院生フィールドワーク助成プログラム 受入企業:(株)神戸製鋼所、堺アルミ(株)、東洋アルミニウム(株) 参加学生:大阪工業大学(2)、大阪大学(1) ③若手研究者・院生による研究発表会 日時:2024年11月18日 10:00~17:00、場所:関西大学千里山キャンパス 備考:口頭発表7件、ポスター発表26件、大学院生フィールドワーク発表3件、特別講演1件 研究発表最優秀賞2名、ベストポスター賞5名、最優秀フィールドワーク賞1件、参加者:72名 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦:1名受賞、②軽金属功労賞推薦:1名推薦 ③軽金属希望の星賞:3名受賞、 ④企業奨励賞:1社受賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動:継続中 ②出前講座 日時:2025年3月18日、場所:堺市産業振興センター 備考:講演2件、参加者:12名(定員20名)

(7)中国四国支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会 2.講演会等 ・研究会(2回) 3.人材育成 ①若手フォーラム	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 第1回役員会(6月13日 WEB開催) 第2回役員会(10月19日開催、広島大学) 2.講演会等 ①第16回支部講演大会 開催日:2024年10月19日開催、発表件数:29件、参加者:50名 ②研究会(日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部共催) 開催日:2024年12月23日開催、会場:愛媛大学、参加者:25名 (世話係:岡山大学、愛媛大学) 支部研究会(日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部共催) 開催日:2025年1月29日開催、会場:広島工業大学参加者:26名 (世話係:広島大学、広島工業大学) 3.人材育成 ①「第56回若手フォーラム」(日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部と共催) 開催日:2024年12月5日開催、会場:ピュアリティまきび(岡山市)、参加人数:25名(世話係:徳島大学) 「第57回若手フォーラム」(日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部と共催) 開催日:2024年12月21日開催、会場:徳島大学(徳島市)、参加人数:35名(世話係:徳島大学)

②高校生のポスター発表(岡山) 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考・授与 5.維持会員加入勧誘活動 ①中小企業支援事業、講演会を開催。 ②訪問活動継続	「第 58 回若手フォーラム」(日本金属学会中国四国支部・日本鉄鋼協会中国四国支部と共催) 開催日:2025 年 2 月 15 日開催、会場 :ピュアリティまきび(岡山市)、参加人数:78 名 (世話係:広島大学、岡山大学、岡山理科大学) ②高校生のポスター発表 「第 57 回若手フォーラム」5 件発表 「第 58 回若手フォーラム」9 件発表 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦なし ②軽金属功労賞推薦なし ③2 名推薦→2 名受賞 ④支部賞 ④-1,支部優秀講演賞:上記 2-①において、8 件授与 ④-2,支部研究・開発奨励賞:上記 2-①において、1 件 1 組に授与 ④-3,支部奨励賞:10 件授与 5.維持会員加入勧誘活動 「中堅企業支援セミナー」 開催日:2023 年 12 月 19 日開催、会場:広島市工業技術センター(広島市)参加人数:32 名(世話係:広島市工業技術センター、広島工業大)
特記事項) 2024 年度中堅企業支援セミナー 「モビリティの熱マネジメントを支える熱交換器の製造技術動向」 日本軽金属(株) 堀 久司氏 「カーボンニュートラルのためのサステナブル軽金属蓄電池用負極材料」富山大学 都市デザイン学部 附田 之欣氏	

(8)九州支部

計 画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①役員会(2 回) ②例会(2 回) ③第 148 回春期大会実行委員会(3 回) ④材料系学協会九州支部支部長会議 2.講演会等 ①合同学術講演会共催 6 月 九州大学 3.人材育成 ①若手研究者支援セミナー ②中堅企業支援支部セミナー 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④合同学術講演会表彰学生による招待講演 5.維持会員加入勧誘活動 ①訪問活動継続 ②中堅企業支援支部セミナー	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①②第 111 回役員会・例会(7/26・熊本大学) ①②第 112 回役員会・例会(3/14・九州柳河精機) ③第一回実行委員会(6/13・福岡) 第二回実行委員会(10/3・北九州) 第三回実行委員会(3/14・熊本) ④第2回材料系学協会九州支部支部長会議(10/7・福岡) 2.講演会等 ①6/1・九州大学筑紫キャンパス 基調講演 2 件, 口頭 47 件, ポスター55 件 3.人材育成 ①7/26 36 名参加, うち若手 11 名 ②7/26 36 名参加, うち中堅企業 8 名 3/14 25 名参加, うち中堅企業 9 名 4.表彰関係 ①なし ②2 名推薦 => 1 名受賞決定 ③募集後, 一次選考 => 3 名受賞決定 ④合同学術講演会で口頭およびポスター発表優秀賞を授与された学生 4 名による招待講演 ※学会賞 1 名推薦 => 受賞決定 5.維持会員加入勧誘活動 ①1 社に対して調整中 ②7/26・熊本大学, 3/14・九州柳河精機

Ⅱ. 処務の概況

[1]役員等に関する事項

1. 役員

職名	氏 名	常勤・非常勤	就任年月日 (最初の就任の時)	重任年月日 (現在の任期の開始時)	報酬	担当 *: 委員長	前回総会時役職
代表理事 ・会長	平野 清一	非常勤	2023 年 5 月 12 日		なし	組織*	㈱UACJ 取締役 専務執行役員 マーケティング・技術本部長
代表理事 ・副会長	佐々木 元	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	総合計画*	広島大学教授
同上	久保田正広	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	総合計画 国際交流	日本大学教授
理事	青木孝史朗	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	企画 参与会	芝浦工業大学教授
同上	安藤 新二	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	編集	熊本大学教授
同上	安藤 哲也	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	総務 研究	室蘭工業大学准教授
同上	市野 良一	同上	2022 年 5 月 27 日	2023 年 5 月 12 日	同上	編集	名古屋大学教授
同上	奥田 浩司	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	研究	京都大学教授
同上	倉本 繁	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	企画 国際交流*	茨城大学教授
同上	小林 正和	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	総務 大会運営	豊橋技術科学大学教授
同上	柴柳 敏哉	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	編集* 国際交流	富山大学教授
同上	鈴木真由美	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	男女共同* 大会運営	富山県立大学教授
同上	田村 洋介	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	総務	千葉工業大学教授
同上	千野 靖正	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	編集	産業技術総合研究所 材料・化学領域 研究企画主幹
同上	中川 恵友	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	大会運営	岡山理科大学教授
同上	廣澤 渉一	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	大会運営*	横浜国立大学教授
同上	星野 倫彦	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	企画 男女共同	日本大学教授
同上	水本 将之	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	編集	岩手大学教授
同上	向井 敏司	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	企画 国際交流	神戸大学教授
同上	穴見 敏也	同上	2017 年 5 月 20 日	2023 年 5 月 12 日	同上	総務*	日本軽金属㈱ 技術・開発グループ 管理部長
同上	宇野 清文	同上	2017 年 5 月 20 日	2023 年 5 月 12 日	同上	総務 大会運営	三協立山㈱ サステナビリティ推進部 参与
同上	黒木 康德	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	研究*	㈱IHI 戦略技術統括本部 技監
同上	田中 宏樹	同上	2022 年 5 月 27 日	2023 年 5 月 12 日	同上	参与会*	㈱UACJ マーケティング・技術本部 R&D センター主幹
同上	谷畑 弘之	同上	2021 年 5 月 14 日	2023 年 5 月 12 日	同上	男女共同	YKK AP㈱ 生産本部 素材技術部 技術企画室 主幹
同上	徳田 健二	同上	2024 年 5 月 12 日		同上	企画*	㈱神戸製鋼所 鉄鋼アルミ事業部門 技術企画部 担当部長
監事	中沢 靖	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	監事	㈱本田技術研究所先進技術研究所 エキスパートエンジニア AMG
同上	高山 善匡	同上	2023 年 5 月 12 日		同上	同上	宇都宮大学教授

[2]職員に関する事項

職名	氏名	常勤・非常勤	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	櫻井健夫	常勤	2023 年 1 月 1 日	全般	2023 年 6 月 1 日着任
職 員	前田その美	非常勤	1996 年 4 月 1 日	庶務	2021 年 10 月 1 日再雇用
職 員	木村明子	常勤	1996 年 4 月 1 日	庶務・編集	
職 員	矢住祐蔵	非常勤	2022 年 12 月 1 日	経理	2024 年 5 月 31 日退職
職 員	八反田 稔	非常勤	2024 年 7 月 1 日	経理	
職 員	徳間由希	非常勤	2025 年 2 月 1 日	編集	

[3]許可、認可、承認、証明に関する事項

年月日	議事事項	履行状況
なし		

[4]契約に関する事項

年月日	契約内容	契約先・委託者
なし		

[5]寄付金に関する事項 寄付金支出はなし

[6]主務官庁からの連絡および報告事項

年月日	議事事項	履行状況
なし		

[7]その他重要事項 特になし

[8]会員動向

	名誉会員	永年会員	個人会員			合計
			正会員	学生会員	合計	
2025年4月1日	46	87	1,352	293	1,645	1,778
2024年4月1日	47	85	1,369	271	1,640	1,772
差引増減	△1	2	△17	22	5	6

正会員の内訳

	大学・高専等	公的研究機関	企業等	その他	合計
2025年4月1日	419	96	793	44	1,352
2024年4月1日	422	97	803	47	1,369
差引増減	△3	△1	△10	△3	△17

特別維持会員・維持会員・年間購読の内訳

	特別維持 持会員	維持 会員	口数									年間 購読
			10	8	6	5	4	3	2	1	合計	
2025 年 4 月 1 日	3	128	2	0	0	0	1	3	17	105	172	35
2024 年 4 月 1 日	3	132	2	0	0	0	1	4	17	108	178	38
差引増減	-	-4	-	-	-	-	-	-1	-	-3	-6	-3

[9]事業報告の附属明細書 事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、附属明細書は作成していない。